

人とかかわる力を育むための援助の工夫

～ 協同的な遊びを通して ～

沖縄市立中の町幼稚園 教諭 比 嘉 慶 士

I テーマ設定の理由

近年、幼児を取り巻く環境は、少子化、核家族化、都市化、情報化などの変化に伴い、家庭や地域において人とかかわる機会が減少していることを踏まえ、幼稚園において、同年齢や異年齢の幼児同士が相互にかかわり合う生活をするのが求められている。

幼児期は、生活の中で自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験を通して、人格形成の基礎となる豊かな心情、物事に自分からかかわろうとする意欲や、健全な生活を営むために必要な態度などが培われる重要な時期である。幼稚園教育要領「人間関係」の領域においても、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を育てる」と示されている。また、その内容の取扱い(3)では、「幼児が互いにかかわりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるようにするとともに、他の幼児と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにする」と述べられている。

本園の園児の実態は、明るく元気な子が多い一方、友達とのやりとりの場面では自己主張が強く、一方的に遊びを進めようとする子や、逆に、自分の気持ちを伝えることができず遊びから抜けてしまう子など、友達とかかわって遊ぶ力に課題があるように感じる。また、発想力や行動力があっても、一人遊びの中でしか自己を発揮できず、集団にうまく参加できなかったり、友達とのかかわりに消極的だったりする子もいる。

これまでの保育を振り返ってみると、個を尊重する援助を心がけ、幼児一人一人に応じた手だてを講じてきたが、人とかかわりにおける援助が適切であったか、という課題があった。また、幼児が興味・関心を持って、友達と一緒に主体的に活動に取り組む手立てや、環境構成が不十分であった、という反省が浮かび上がった。

本研究のテーマである「人とかかわる力を育む」とは、幼児が安心して集団の中で自己発揮して遊び、興味関心のある遊びを友達と遊び込み、それを一緒に進めて楽しむこと、と捉える。そこで共通の目的が生まれ、遊びを進めていく中で、友達とのかかわりも深まっていく。そして、友達の良さに気付くことで、共感や思いやりの心も育まれると考える。

本研究では、協同的な遊びを通して、幼児同士が相互に影響し合える場を設定し、その環境構成や教師の援助の工夫をしていく。それを通して友達とかかわり合い、人とかかわる力を育み、様々な感情の交流を経験しながら、共に行動したり楽しんだりする幼児の健やかな発達ができるであろうと考え、本テーマを設定した。

II 目指す幼児像

- 1 友達と積極的にかかわりながら、さまざまな遊びを一緒に楽しめる子
- 2 遊びの中で友達の良さに気づき、共感し、思いやりの気持ちを持って行動する子

III 研究目標

人とかかわる力を育むために、幼児同士が相互に影響し合える協同的な遊びを通して、友達の良さに気づき、共に育ち合うための環境構成や教師の援助を探る。

IV 研究仮説

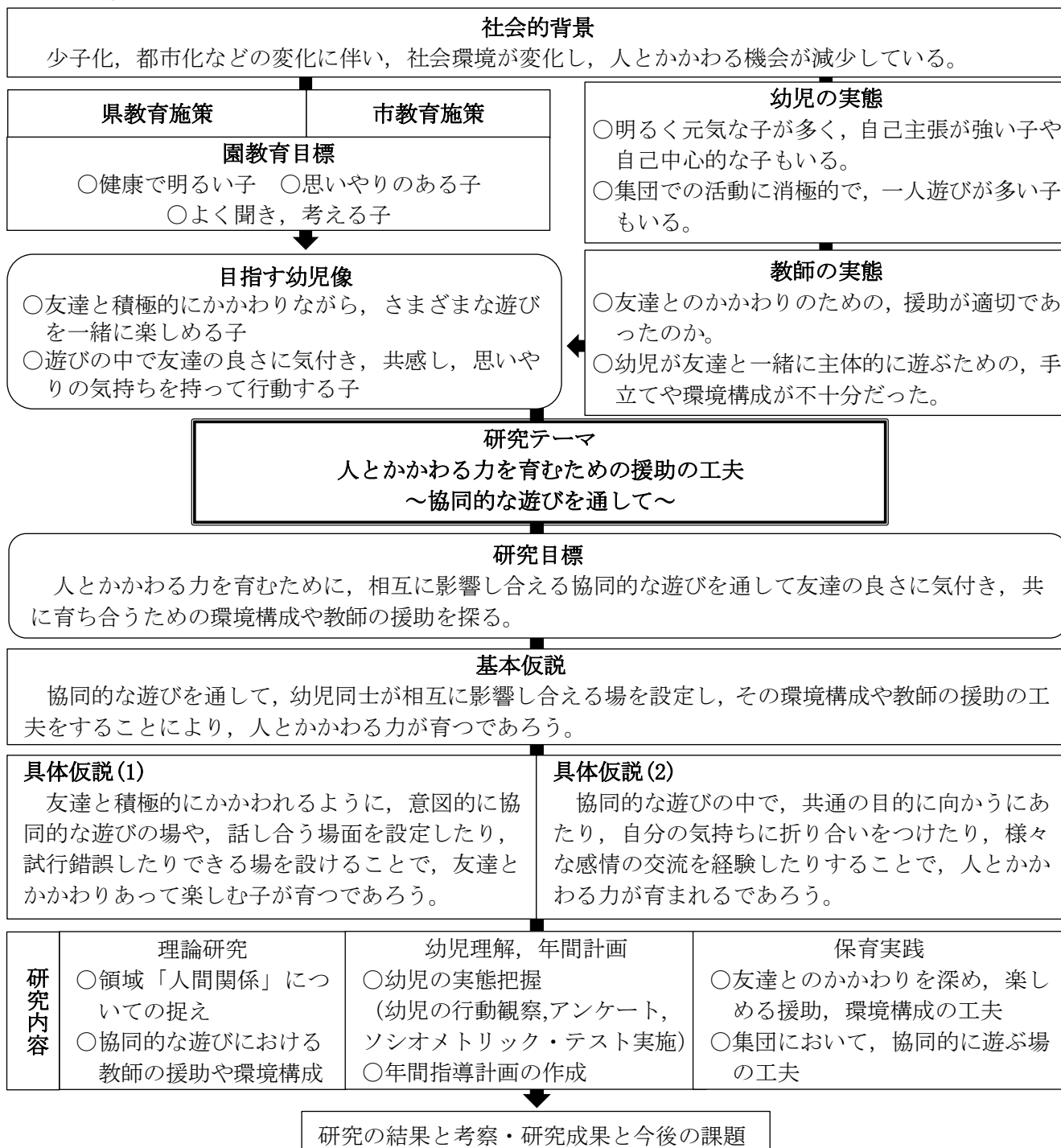
1 基本仮説

協同的な遊びを通して、幼児同士が相互に影響し合える場を設定し、その環境構成や教師の援助の工夫をすることにより、人とかかわる力が育つであろう。

2 具体仮説

- (1) 友達と積極的にかかわれるように、意図的に協同的な遊びの場や、話し合う場面を設定したり、試行錯誤したりできる場を設けることで、友達とかかわりあって楽しむ子が育つであろう。
- (2) 協同的な遊びの中で、共通の目的に向かうにあたり、自分の気持ちに折り合いをつけたり、様々な感情の交流を経験したりすることで、人とかかわる力が育まれるであろう。

V 研究構想図



VI 理論研究

1 理論研究

(1) 幼稚園教育要領「人間関係」の捉え

領域＜人間関係＞ねらい

他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とのかかわる力を育てる。

幼稚園において、人とのかかわる力を培うためには、教師との温かい信頼感に満ちた幼稚園生活が送れるようにしていくことが大切である。それを基盤にしながら、基本的な生活習慣を始めとする、幼稚園生活における様々なことを自分の力でやり、自立心を育て、人とのかかわるようになっていくことが重要であると考え。そこで幼児をとりまく環境の中で、様々な他者とのかかわる経験が生まれ、人間関係の豊かさを育てていくのではないかと考える。

また、幼稚園教育要領「人間関係」の内容（8）では、以下のように述べている。

人とのかかわる力をはぐくむ上では、単にうまく付き合うことを目指すだけでなく、幼稚園で安心して自分のやりたいことに取り組むことにより、友達と過ごす楽しさを味わったり、自分の存在感を感じたりして、友達と様々な感情の交流をすることが大切である。

本研究の目指す幼児像にある「友達に積極的にかかわる」ということは、幼稚園生活を安心して過ごし、そこで得た安定感、教師や他者に対する信頼感から、自ら進んで友達と十分に触れ合い、人とのかかわりを楽しむことと考える。

(2) 人とのかかわる力とは

幼児期における「人とのかかわる」ことは、社会に適応し、人として育つ基盤づくりだとされている。そこで重要なのは、遊びの中で嬉しい、楽しい、悔しい、悲しい等の多様な感情体験を重ね、友達の気持ちに気付いていくことである。そして自己の存在感も感じ、一緒に過ごすことの楽しさを感じることで、友達とのかかわりを学んでいくことである。そこで自分以外の他者の存在に気付き、遊びたいという気持ちが高まり、人とのかかわりが広がっていくと考える。

幼稚園においては、入園当初は自分の世界で過ごし、他者とのかかわりの少ない幼児も、次第に周りに目を向け始めていく。そして一緒に遊ぼうとし、そこで様々な交流をし、感情体験を重ね、他者とのかかわり始めるその過程が大切であり、それが人とのかかわる力の第一歩となると考える。また、葛藤、いざこざ等の、他者とのかかわりで生まれる感情に対して、解決策を試行錯誤していくことの思考力、調整力も育まれるべき力の一つであると考え（図1）。

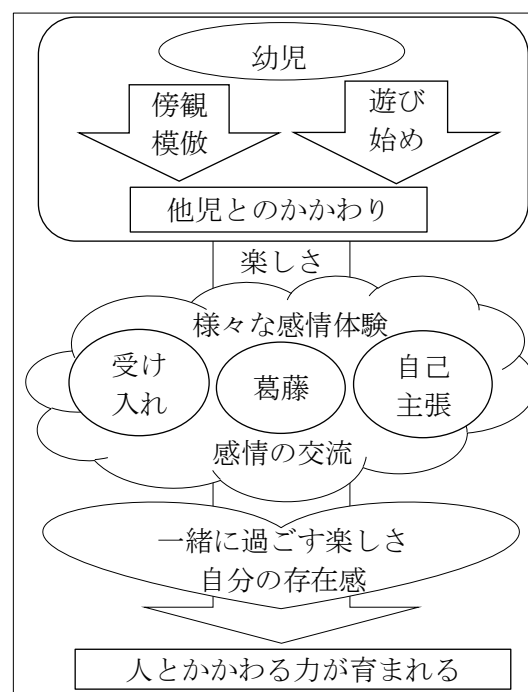


図1 人とのかかわる力が生まれる段階

(3) 協同的な遊びについての捉え

協同的な遊びは、最新保育用語辞典（1992）によると「複数の子どもが力を合わせて取り組む遊びのこと」と記されている。協同的な遊びとは、人とのかかわる過程の中で、他者の思いや考えに気付く、それに応えたり受け入れたりしていく、という経験を積むことができる遊びであると考え。そこで他者と共に取り組みたいことを見つけ、共通の願いや目的を見出していくという、自分たちの必然性から生まれた「目的」に向け、自ら力を合わせ取り組んでいく、という過程を意味している。そして、遊びに示される協同について、大場幸雄（1992）は以下のように述べている。図2はそのイメージ図である。

他児との積極的な交渉を通して、役割の分担、知恵の出し合い、リーダーシップの出現、仲間と一緒にいることの充足感に裏打ちされたメンバーシップの形成などの特徴を持つものであり、人とのかかわりに重要な役割を持つもの。

幼児にとって幼稚園は集団生活の場であり、友達とかかわって共通の目的を見出し、実現する過程を通して学び、実現していく喜びを感じていくことだと考える。そして共通の目的に向かって、共有と分担を交互に繰り返す「協同する経験」を重ねていくことが重要であるとする。

また、「協同する経験」は、コミュニケーション能力や、物事に見通しを持って創り上げていく力など、友達と一緒に活動していく中で大切な力を培うと考える。そして、相手とのかかわりを通して、共感する、協力するというような体験が、幼児にとって充実した相手とのかかわりで、広げていく経験であれば、幼児の着実な発達につながると考える。

無藤隆(2011)は、協同的な活動について、以下のように述べている。

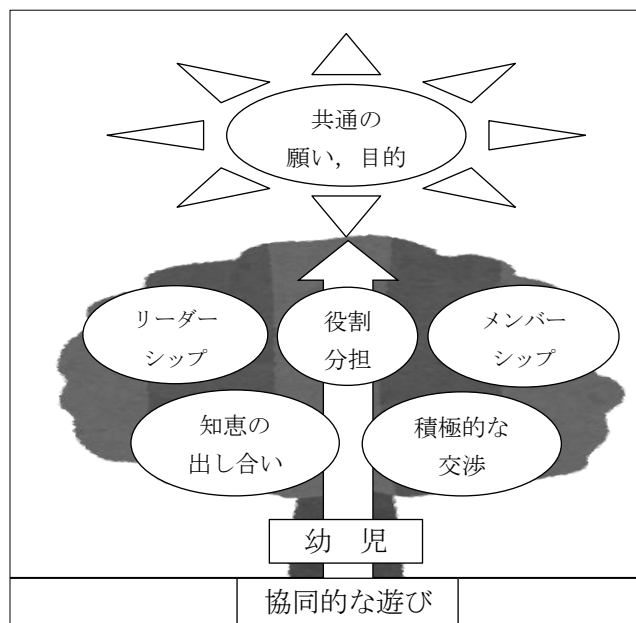


図2 協同的な遊びのイメージ

- ・協同的な活動とは、共通の目的を実現していくプロセスを通して、子どもが工夫の仕方と協力の仕方を学んでいくこと。
- ・その共通の目的を見出すことは子どもたちが発見するのであり、保育者が与えるわけではない。

友達との遊びの中で、共通の目的を見つけるために、様々な環境とのかかわりを通して、協同的な活動は深まっていく。そこで教師は、幼児の実態に応じた環境構成を行い、幼児の自発性、主体性を大切に援助をしていく。そしてその援助の中で、教師主導にならないかかわり方が求められるのである(図3)。

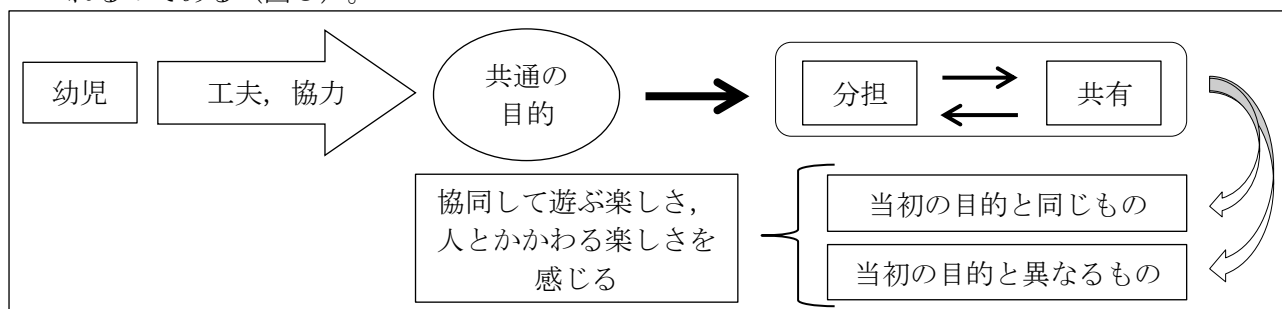


図3 無藤 隆(2011) 協同性が生まれるまで (一部加筆)

① 協同して遊ぶまでに

幼児が協同して遊ぶようになるためには、まず一人一人がその子らしく遊べるように、自発性を育てることが基盤におかれなければならない。自発性は主体性が関連していることを踏まえ、幼児の発達段階を考えると、安心感が感じられる場がなければ、幼児の自己発揮には至らず、自発性の獲得は難しいと考える。それには、教師との信頼関係や幼児を取り巻く、周囲の温かい雰囲気が必要である。

② 協同して遊ぶことで育つ力

幼児は協同的な遊びの中で、他者と共に活動する楽しさを味わいながら、約束事や決まり事があることも知り、それを守ろうとする規範意識の芽生えや、相手を思いやる心も同時に育まれる。

そして一人ではできないことも力を合わせると可能になるということにも気づいていき、仲間への信頼感を感じ、所属感、一体感につながっていく。そして幼児は、様々な人間関係の調整の仕方について体験的な学びを重ね、人とかわる力の基礎を培っていくのである。

(4) 協同して活動するための教師の援助とは

友達との関係が深まってくると、共通の目的やイメージが見つかり、一緒に活動することが楽しい、と感じられるようになってくる。友達と共通の目的を見出し、協力して活動を展開する楽しさが味わえる協同的な遊びでの教師が必要な援助について、友定啓子、小田豊(2008)の考察と幼稚園

園教育要領解説を参考に以下のようにまとめた。

① 一緒に遊んでいる幼児同士の関係の把握

気の合う友達関係にも力関係は存在する。一方が引いた態度でのかかわりだからこその関係も成り立つこともある。いつも中心になっているのは誰で、その中で自己発揮できていないのは誰なのか、その理由は何なのかを、教師は状況を適切に捉えて把握しなければならない。友達同士のお互いの発達のためには、どのような関係、経験を重ねられるようにするかを考える上でも、幼児の実態把握は大切である。

② 幼児同士の関係性を捉え、実態に応じた、活動のねらいの設定

友達とのかかわりの中では、いくつかのグループができ、その中でもさまざまな関係性が見られる。いつも一緒に行動する、興味関心が同じ等、様々である。いつも同じ友達とだけ活動しては、人間関係の広がりや深まりが生じず、固定した経験のみになってしまう。そこで教師は人間関係を把握し、その時期にふさわしい経験を重ねられるように、実態に応じた活動のねらいを明らかにし、援助していかなければならない。

③ 一人一人に応じた援助

幼児一人一人が自己発揮して、自発的な行動がとれるようになることで、あらゆる環境に進んでかかわれるようになり、他者との協同的な活動も生まれる。そのために一人一人に応じた援助をしていくことが大切であると考え。そこで、教師の援助の視点を以下の3点にまとめた。

ア 誰でも進んで話や活動に参加できる雰囲気づくり

活動時には遊びの様子を見取り、参加を躊躇している子には寄り添い、相手の状況も考えて参加できるようにする。話し合いの場では、学級全体、または各グループごとの小集団での話し合いで、一人一人の発言を丁寧に拾っていく。

イ 場面、状況に応じた援助

幼児の行動を温かく見守りながら、言動や表情から場面、状況に応じた援助を考え、先回りしすぎないようにする。

ウ 発問の工夫

発問はねらいを明確にして、応答を予測することが大切である。一人一人の実態、集団の実態に合わせることも大切で、内容が抽象的、経験したことがないことだと、一部の子だけの議論になってしまう。そこで、絵や写真などの具体物を提示することで、一層話し合いが深まる材料になり、共有しやすくなる。その教材の工夫が大切である。

(5) 協同的な活動ができる環境構成の工夫とは

協同的な遊びを展開するためには、友達と共通の目的を持ち、意欲的に環境にかかわれる、物的、空間的環境の構成が必要である。そのために教師が行う環境構成の工夫を、以下のようにまとめた。

① 子ども達の興味関心をつかむ教材作り

幼児が意欲的に遊ぶためには、興味関心を捉えた環境構成がかかせない。それを基盤に遊びが始まり、展開し、深まっていく。そして、幼稚園教育の生活全般には「ねらい」があり、それを達成させるための教材準備と、環境の再構成を行うことが大切である。

② じっくりと遊び込む時間と遊びの精選

様々な活動が展開される幼稚園生活の中で、遊び込む時間を確保し、子どもがその遊びを繰り返し楽しめる、空間的環境も整えることが大切である。遊びが展開し、共通の目的が持てるための遊びの精選には、幼児の実態把握が欠かせない。幼児の発達段階、実態に応じて、教師はねらいを立案する。そして、幼児の興味関心と、ねらいの教育的意図が、様々な環境とかかわることによって、遊びや活動が深まっていく。そこでの充足感、集団的達成感は一人では味わえないものであり、それこそが協同的な遊びで大切なことのひとつであると考え。

(6) 協同的な遊びにおいて、幼児を見取る視点

幼稚園における活動の中に、幼児が自発的な行動ができる主体的活動がある。その活動での人とかかわりにおける、幼児の実態を把握することが、適切な教師の援助、環境構成の材料になると考える。その視点を兵庫県教育委員会、指導の手引き「人とかかわりを豊かにする教育の推進」（2010）を参考に、表1にまとめた。

表 1 活動時における幼児を見取る視点 (2010. 兵庫県教育委員会より、一部加筆修正)

幼児を見取る場面	幼児を見取る視点
遊びを工夫する場面	① 遊びに必要な物を考えたり作ったりして積極的に行動を起こし、試行錯誤しながら進んで楽しもうとする。 ② 友達と一緒に行動し、自分なりに友達のアイデアを取り入れて工夫しようとする。 ③ 遊びに消極的で、友達の側で、遊びの流れに合わせて参加している。
ルール(役割分担も含む)を作り出して遊ぶ場面	① 役割分担やルールが必要な場面で、自分から提案し、約束を決めたり変更したりする。 ② 友達のアイデアに同調したり、意見を述べたりして、遊びを工夫しようとする。 ③ ルールや役割分担の必要性にあまり関心を示さず、自らのペースで遊びをすすめようとする。
言葉による伝え合う場面	① 自分の思いや考えを積極的に発言し、伝えたり聞いたりする。 ② 発言はしないが、友達の話に共感したり同意したりする。 ③ その場のやりとりによりあまり関心を持たず、傍観している。

この3つの視点は、幼児の実態把握、遊びの展開や見通しを持つために、必要な視点であると考ええる。そして、この3つから培われる力は、試行錯誤する、規範意識の芽生え、言葉による伝え合いという、協同的な活動で育まれる力につながる大切なものである。それに着目して実態を把握し、考察することが、適切な援助、環境構成につながると考える。

2 指導計画

(1) 幼児の実態把握 (ソシオメトリック・テスト)

ソシオメトリック・テストとは、J. L. モレノ (1953) によって考案されたテストで、ある集団に属している個人に対し、一定の条件で仲間を選択させる。その結果を基に考察、分析し、その集団の人間関係を把握するテストである。それによって仲間内地位を検討したり、集団の中でのグループなどを知ったりすることができ、新たな友達関係を広げる手立てともなるテストである。このテストを、以下の方法で行う。

- 一人一人と個別に行い、仲間の写真や名前の書かれた用紙を見せて、学級内の仲間との関係を尋ね、名前を挙げてもらう。
- テストでは「選択」(好意、仲間意識)「排斥」(拒否、苦手意識)の選択項目があるが、本研究では、活動を進めていく上での学級内での友達関係を把握するため、学級の中での好きな友達の名前を挙げてもらう「選択」だけを行う。
- 幼児期は、好きな友達との関係を基盤にして、人とのかかわりが広がることを考慮し、友達の数を選定せずに選択させる。

今回は、「人とのかかわり」という視点に着目して、テストを実施した。ここで言う「人とのかかわり」とは、学級内での他者を、幼児が「友達」として捉えていることである。幼児同士が、お互いに、相手の名前を挙げた場合が相互関係(マッチング)となり、友達関係が築けている、と捉える。また、一方のみが相手の名前を挙げた場合は、マッチングではないが、名前を挙げた方(選択した方)が相手に親しみを持っている、と捉える。図4はその結果である。

図4を見ると、全員(28名)が一人以上とマッチングがあったことで、安心できる存在が学級に一人以上はいることがわかる。全体として、一人約2名とマッチングしている結果が出たことで、全体的に、二人以上の他者とのかかわりがあることがわかる。マッチングの合計の数値が82名と、学級の人数の約3倍であり、平均値を考えると、一人当たり約3人の友達関係が築けていると捉えた。そして、相互関係、選択関係共に、1～4人の選択が一番多いことがわかる(図5)。

その中でA児は、友達の名前を一人しか挙げず、マッチングも1名だけだった。また、他の幼児から選択される数も少なく、学級で最少の2名であった。また、名前を挙げる数が2名以下だった子が6人(A児を含む、全体の約21%)おり、6人全てが男児であった。



図4 検証前ソシオメトリック・テスト

そして、男女共に、同性を選ぶ傾向があり、同性しか選ばない子が学級の約7割(19人、約68%)いたため、性別での友達関係が分かれている状況も見られる(図6)。特に女兒は73%(8人/11人)という結果が出ており、高い割合で同性を選択しているという様子がある。

このことから、友達関係に偏りが見られ、特定の友達と遊ぶ、つまり固定した友関係が多い、という子ども達の姿があると考え。この幼児の実態を捉え、人とのかかわる力を育むために幼児同士が、相互に影響し合える協同的な遊びを取り入れ、さまざまな友達とのかかわれるような、環境や援助の工夫が必要であると考える。

しかし、幼稚園教育要領で述べられているように、人とかかわり是一緒に遊ぶ人数にかかわらず、自分も他の幼児も生き生きとするような関係性を築くことであることは、踏まえていかなければならない。

(2) 年間指導計画

人とかかわる力を育むために必要な、一年間の幼児の育ちを見通したねらい、環境の構成、教師の援助を明確にするために、年間指導計画を作成した。人とかかわる力を育むために、協同的な活動で育まれる3つの力の項目を設け、実践できるようにする。この年間計画を基に、幼児の発達を考察し、研究に取り入れて実践につなげていく。

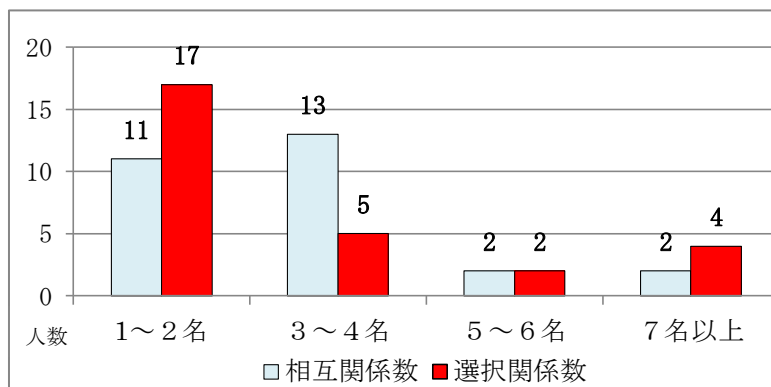


図5 相互関係、選択関係

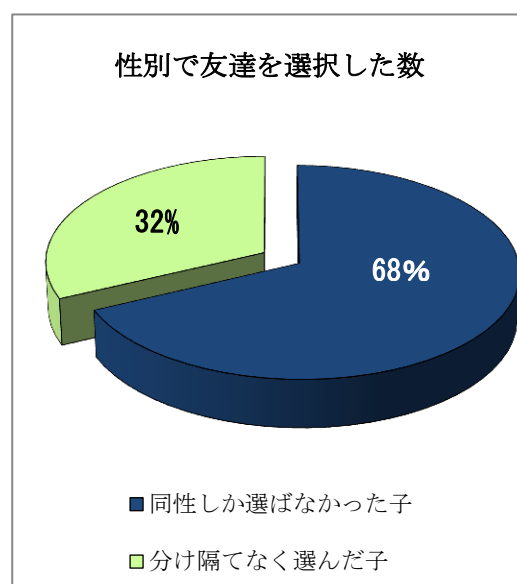


図6 性別で友達を選択した数

年間指導計画

		I 期（4～5月）	II 期（6～9月）
発達過程 幼児の ねらい	発達の過程	・教師や園の環境とかかわりながら、一緒に遊びや生活をしながら園生活に慣れ親しんでいく。 (安心感を感じる、居場所づくり)	・園生活の流れを知り、気の合う友達や環境にかかわりながら、様々な遊びや活動に興味関心を持つ。 (友達とかかわり、興味関心、やりたい遊び)
	ねらい	・園生活のきまりや生活の仕方などを知る。 ・教師や友達に親しみ、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。	・興味のある様々な遊びや活動を、友達とかかわりながら楽しむ。 ・自分の思いや考えを話し、相手の話も聞きながら行動しようとする。
園、学級での遊び、活動	園、学級での遊び、活動	・室内（塗り絵、お絵描き、ブロック、ままごと、粘土、積み木、絵本等） ・戸外（固定遊具、鬼ごっこ、砂場、飼育物の世話、自然観察等）	・室内（ままごと[ごっこ遊び等]、新聞紙び、製作遊び、リズム等） ・戸外（固定遊具、砂場、ごっこ遊び、飼育物の世話、自然観察[セミ取り等]、色水遊び、泥団子作り）
	園全体での活動	・リズム遊び ・歌遊び ・手遊び ・ゲーム遊び（ハンカチおとし、おおかみさん等） ・遊戯室遊び（体操、リズム遊び、リトミック、マルチパネル）	・ゲーム遊び（椅子取りゲーム、フルーツバスケット、だるまさんがころんだ、花いちもんめ等） ・体育館活動（リズム遊び、体操、タッチリレー） ・遊戯室（巧技台、ソフトブロック、マット遊び）
人とかかわるための力（協同的な遊び、活動）	遊びや活動を工夫する力	・園の環境や、気の合う友達にかかわりながら、気に入った遊びを見つけて遊ぶ。 ・友達の遊びや行動を見たり、真似をしたりする。 ・自分なりに考えながら行動しようとする。	・友達のしていることを真似したり、一緒に遊ぼうとしたりする。 ・いろいろな素材や環境（自然事象）、道具に関心を持ち、かかわったり使ったりして遊ぼうとする。 ・遊びや活動の中で、友達の考えや行動を取り入れて一緒に遊ぼうとする。
	作り出す力	・園や学級での安全な生活の仕方、遊び方を知る。 ・学級や園での約束や、グループでの当番活動の約束を守って行動しようとする。 ・遊びの準備や片づけを、教師や友達と一緒にする。	・園や学級の安全な生活の仕方、約束や遊び方がわかり守ろうとする気持ちを持つ。 ・遊びや活動の中で、教師や友達とのやりとりを通して行動しようとする。 ・遊び方や片付け方を、教師や友達と相談して進めようとする。
	言葉による伝え合う力	・教師や友達と、あいさつや会話を交わそうとする。 ・思ったことや考えたことを、自分なりの話し方で伝える。 ・教師や友達の話の聞こえようとする。	・教師や友達と、進んであいさつや会話をする。 ・自分の思いや考えを伝えながら、遊びや活動を進めようとする。 ・いろいろな事象の中で、発見した喜びや遊んだ楽しさなどを、教師や友達と感じたことを伝え合う。
◎環境構成 ☆教師の援助		☆新しい環境で不安な気持ちと、幼稚園生（年長）になった喜びを受け止めながら、個々に応じた言葉かけ、援助を心がける。 ☆園生活の仕方を丁寧に伝えながら、一人一人が安心感を持って、遊びや活動に入れるように、楽しい時間や雰囲気作りに努める。 ◎親しみを感じる遊びや環境を整え、安心して自分なりに参加できるようにしていく。	☆一人一人の思いや考えを受け止め、個々のつまづきに応じた援助や、先回りしすぎないかかわりを心がける。 ☆様々な体験や、出来事を学級全体で一緒に考えたり、気付かせたりしていきながら、思いを共有できるようにする。 ◎様々な素材や栽培物、自然物を含めた環境を整え、幼児なりにかかわって、試したり工夫したりできるようにしていく。

		Ⅲ期（10～12月）	Ⅳ期（1～3月）
発達過程	幼児の	仲間意識が出始め、みんなで協力して遊ぶ楽しさを感じ、友達同士のかかわりが少しずつ深まり、遊びや活動が広がる。（自己発揮と折り合いをつける経験、集団的達成感）	学級や友達同士での仲間意識が育ち、自分達で目的や目標を持って、遊びや生活を進めようとする。（集団・目的意識の発達、就学への期待）
	ねらい	- 共通の目的に向かい、話し合ったり協力したりして、活動する楽しさを味わう。 - 自分の思いや考えを伝えながら、相手の言動と折り合いをつけたり、相談したりしながら行動する。	- 自分達で相談しながら、ルールや目的を考え、それを守って楽しく遊びを進める。 - 様々な活動に自信を持って取り組み、友達と一緒にやり遂げる充実感を味わう。
園、学級での遊び、活動	主体的な遊び	- 室内（ごっこ遊び、製作遊び〔季節の事象を取り入れて〕、楽器遊び、劇遊び等） - 戸外（運動会ごっこ、エイサー、縄跳び、大縄跳び、フラフープ、竹馬等）	- 室内（かるた、すごろく、こま回し等のお正月遊び、トランプ、年賀状ごっこ、学校ごっこ等） - 戸外（羽根つき、凧揚げ、運動遊び、ドッチボール、サッカーなど）
	園全体での活動	- おまつりごっこ（お店屋さんごっこ） - 運動会・敬老会・秋の遠足（秋の自然物や動物観察）・生活発表会・お楽しみ会	- 地域、小学校との交流会・たこあげ大会 - お別れ遠足・収穫祭（カレーパーティー） - 一年生ごっこ（学校ごっこ）
人とのかかわるための力（協同的な遊び、活動）	遊びや活動を工夫する力	- 様々な素材を遊びや活動の用途に応じて、工夫して使おうとする。 - 友達と一緒に遊びを広げたり、目的に向かって協力をしたりする。 - 自分のアイデアを友達と共有したり、相手の発想に共感したりして、遊びや活動に取り入れようとする。	- 自分の考えや発想を、様々な素材を使って試行錯誤し、達成しようとする。 - 遊びや活動をスムーズに進めるために、自分たちで話し合い、役割分担や順番を考える。 - 自分達で見通しを持って、話し合ったり行動したりして進めていく。
	ルールを作り出す力	- 遊びの中で必要なルールや約束を友達と一緒に話し合い、相談して進めようとする。 - 様々な活動の、安全な遊び方や過ごし方を、友達に伝えたり聞いたりしながら過ごす。 - 遊びの中で役割分担をし、折り合いをつけたり友達と相談したりして進めていく。	- 園生活や健康のための生活習慣を話し合い、それを守って行動したり教え合ったりする。 - ルールのある遊びを友達と相談して、工夫したり広げたりして楽しんでいく。 - 友達とのかかわりで、折り合いをつける中で、相手の良さや集団の良さを感じる。
	言葉による伝え合う力	- 学級や集団の中での話し合いを通して、自分の思いや考えを伝え合おうとする。 - 相手の話を聞きながら、共感したり共有したりして、言葉で伝え合おうとする。 - 季節の行事の中で、活動に必要な言葉がわかり、人とのかかわる中で使おうとする。	- 話し合いの中で自分の考えと相手の考えを合わせながら、遊びや活動を進めていく。 - 様々な文字や言葉、自然事象などを伝え合いながら、友達と会話を楽しんでいく。 - 様々な場に合った言葉や話し方がわかり、それを使って伝えようとする。
◎環境構成 ☆教師の援助		☆様々な園行事が展開していく中で、学級や集団で話し合いができる時間を確保し、じっくり活動に取り組めるようにする。 ☆お互いの良さや違いを認め合えるようにし、一人ではできないことも、力を合わせると可能になることに気づかせていく。 ◎遊びや活動の状況を、教師も同じ目線で一緒に整理し、実現可能かどうかを考えさせていきながら、一緒に環境を整えていく。	☆残り少ない園生活を見通せるように、予定や流れなどを知らせ、学級や集団で、どう楽しく過ごせるようにしていくかを話し合わせていく。 ☆目標や目的が達成できるように、成長や行動を褒めたり認めたりして、自信を持って活動できるようにする。 ◎これまでの思い出を振り返りながら、共有する場を設け、残り少ない園生活や学級の環境を、友達同士で整えていけるようにする。

VII 研究実践

1 実践事例

「友達と一緒に楽しむ表現遊びから、共通の目的に向かった協同的遊びに展開し、生活発表会に向けて劇づくりをする」という目的を設定し、協同的な活動が展開できるように実践を行った。

検証保育(1), (2)	
「友達との表現遊び：好きな遊びを選ぶ、友達と楽しむ」	
○幼児の姿	☆教師の援助, 環境構成
○様々な遊びの中から興味関心のある好きな遊びを選び、友達とのかかわりの中で楽しんでいる姿が見られた。 写真 1 「こんなかな？リンリン♪」 「えーっと、ここを指にこうかけて…」 写真 2 写真 3 ○うまく遊びに参加できず、ふざけた態度をとったり、友達の遊びを妨げようとしたりするC児。今の環境にはない段ボール遊びをしたいようで、それをうまく伝えられない様子だった。振り返りの場で、C児からの相談ということで、一緒に提案をすると、みんなも「いいよいいよ！」「賛成！」と同意してくれた。次の日からその環境を構成すると、友達同士で誘い合いながら遊び始める様子が見られた。	☆様々な教材教具、素材を整え、遊ぶ環境に進んでかかわれるようにする。(写真1・2) ☆遊びの様子を見取りながら、時には参加し、一緒にかかわりながら、一人一人の興味関心を捉え、把握していくように努める。 ☆活動の中で、遊びに必要な物に気付かせ、振り返りで発表できる場面を設定して、次の活動へ期待が持てるようにする。(写真3)

検証保育(3)～(6)	
「共通の目的を持った協同的遊び：友達と一緒に楽しむ、遊び込む(相談・話し合い)」	
○幼児の姿	☆教師の援助, 環境構成
○遊びこめるような環境の再構成や、C児の事例を基に、みんなで話し合う場を作ることによって、「自分もこんな事を友達とやってみたい！」という意欲が湧くようになった。すると、教師や友達と相談しながら遊びが広がり始め、遊び込む様子が見られた。(写真4・5) 「ここをこうやって貼って…」 「ちゃんとくっついてる？」 写真 4 写真 5 「見て、こんな絵にしたんだよ」 「僕は妖精を描こうかなー」	☆楽しんでいる遊びを紹介したり、アイデアを話したりする場を設定し、興味持って活動に参加できるようにする。 ☆遊びをそれぞれで楽しめるように、場所の確保や材料を提供したりして、遊び込めるようにする。 ☆遊びの中で集団を大切に、会話に共感したり、紹介したりして、刺激にしながら話し合いが深まるようにする。



写真 6

☆友達と会話しながら遊びを進める楽しさや、同じ目的に向かって、遊ぶ充実感が味わえるようにしていく。(写真6)

検証保育(7)～(9)

「生活発表会に向けて劇づくり：友達と一緒に共通の目的が生まれる，試行錯誤，協力」

○幼児の姿

○生活発表会の話から，どう学級で取り組んでいくかを話し合う。(写真7)



写真 7



写真 8

☆教師の援助，環境構成

☆話し合った内容を紙芝居にして，イメージの共有を図りながら，劇作りに期待が持てるようにしていく。(写真8)

☆劇作りの準備を進める中で，集団での話し合う場や，試行錯誤が出てくる場面に応じて援助をしていく。

「幼稚園の劇にしようよ！」 「あやとりもリズムも見せたい！」

○話し合った内容を，実際に演じてみたり試したりする。(写真9・10)



写真 9



写真 10

☆話し合いの中で決まった内容を，自分たちで演じられるように，さまざまな表現を褒めたり認めたりしていく。

☆実際に作ったり試したりできる場の設定や，劇遊びの流れが途切れないように，時間配分や空間の環境を整え，展開できるようにしていく。(写真11)

「初めは右から！せーの！」
「ジングルベル ♪ジングルベル ♪」

「手は離れてない？」
「人間あやとり，大成功！」



写真 11

☆振り返りの場では言葉での話し合いだけでなく，実際に試せるような場を設定したり，視覚的にわかるような物を準備したりしていく。

「最後はみんなで手をつなごう！」 「世界中の子どもたちが～♪」

Ⅷ 公開検証保育

公開検証保育指導案

平成 28 年 12 月 7 日（水）
沖縄市立中の町幼稚園 2 組
男 17 名 女 11 名 計 28 名
保育者 比嘉 慶士

1 活動名 「みんなで劇作りをしよう」（10/15 時間）

2 活動の目標（教育要領：人間関係のねらい より）

- (1) 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。[人間関係(1)]
- (2) 身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感を持つ。[人間関係(2)]
- (3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。[人間関係(3)]

3 協同的活動のねらい

- (1) 生活発表会での劇作りを通して、「友達と一緒に共通の目的に向かう」という活動で、創造力や表現力を養う。
- (2) 友達同士でグループを作り、その中で一緒に協力する習慣や態度を養う。

4 本活動における指導内容（教育要領：人間関係の内容より）

- (1) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。[人間関係(1)]
- (2) いろいろな遊びを楽しみながら、物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。[人間関係(4)]
- (3) 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。[人間関係(5)]
- (4) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。[人間関係(6)]
- (5) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり協力したりなどする。

[人間関係(8)]

5 活動設定の理由

(1) 教材観

劇作りは、劇のイメージをみんなで共有し、同じ目的を持ちながら、役割を分担したり、楽しく進めたりするための決まりを作ったりしていく。そして、お客さんに喜んでもらうにはどうしたらいいか、相談しながら創り上げていく過程の中で、他者とのコミュニケーションや試行錯誤、葛藤体験等の多様な体験から、友達とのかかわり方を学んでいけるものである。

劇作りを、学級全体で共通の目的に向かって進めるという場合には、これまでに様々な経験を重ねてきた幼児が、その経験を生かしながら、友達と一緒に活動を主体的に進めて行く貴重な場であると考え。そこで友達とのかかわりを通して、自己主張をし、そのやりとりの中で相手の感じ方に気付いていく。そしてお互いの良さがわかり、時には意見の相違や、それによる葛藤を経験し、気持ちに折り合いをつけるなどを通して、一緒に遊びを進めていくようになる。その中で自分たちで考え、構成し、実行してやり遂げるという過程が大切であると考え。

また、これまでの幼稚園生活を振り返り、その遊びや生活の経験を題材とし、子ども達が、今までの体験を活かした劇作りにつなげることは、経験したことの安心感から、自分の思いや考えを伝えながら、友達と新しい経験を重ね、かかわりを広げていくことができると考える。それを幼児が、自分たちで協力して進める機会を作ること、共通の目的を通して、話し合う経験、共感体験を重ね、人とかかわる楽しさを感じ、成長することができると考える。また、劇を成功したことで得ることができる、集団的達成感や充実感を味わうことを通して、友達と協力して活動する楽しさも感じられることができるのではないかと考える。

(2) 幼児観

学級の実態としては、以前から好奇心旺盛な子どもたちで、幼稚園生活で様々な遊び、行事を経験してきたことで、多くの自己表現を重ね、遊びや活動に進んで参加することができるようになっている。自分の好きな遊びを選び、その中で仲間と創りあげる経験をし、気の合う仲間とともに一緒に活動することが楽しい、ということが感じられる様子もあるが、一方で、その学級で広がっている遊びに参加せず、うまく友達とかかわれず、遊びに入れなかったり、一人遊びに終始してしまったりする子も見られる。

また、集団生活のきまりは知っているが、守れない子や、忘れる子も何人か見られ、学級活動の

中では、自分の思いのままに行動して、活動から抜けてしまう子の姿も見られる。友達と一緒に遊んだり、活動したりするためには、自己抑制力を育み、自分の気持ちや行動を調整したりすることも必要であると考え。

(3) 指導観

友達と相互に影響し合い、かかわり合う協同的な遊びは、それぞれに自分の思いや個性を発揮できるようになったり、他者の思いや、個性に出会ったりするという経験を積むことができる遊びである。その協同的な遊びを劇遊びに向かわせることで、共通の目標に向かって、友達と試行錯誤したり、意見を交わしたりする過程を、重ねることができるようになっていく。そして、互いの思いや考えを出し合い、折り合いをつけながら進めていけるように、劇の内容を幼児と一緒に考えていく。

劇遊びを進める中で、皆で力を合わせることが必要な状況がある時には、課題に気付かせたり、幼児の発言を拾い、解決できる、いい考えを共有できる場面を設定したりする。教師はその経験ができるように、まずは学級全体での話し合いの中での意見を大切に、自由に意見が述べられる、温かい雰囲気作りに努めていく。演目の場面の中で、幼児同士の意見交換による、いざこざ等でのトラブルには仲立ちや代弁をして、相手のことを考えながら話し合えるようにし、試行錯誤ができるように心がける。そして学級全体で楽しみ、協力して進めていく気持ちを大事にし、劇遊びを楽しめるようにしていく。

本活動では、幼稚園生活を土台とした劇作りを通して、協同的な活動を展開し、共通の目的に向かうにあたり、自分の気持ちに折り合いをつけたり、友達と様々な感情の交流を経験したりすることで、人とかかわる力が育まれるであろうと考える。

6 活動の評価

劇遊びで、共通の目的に向かうにあたり、自分の気持ちや行動に折り合いをつけたり、場面に合わせた行動をしたりして、劇遊びを楽しむことができたか。

7 検証指導計画

	回	活動	☆ねらい ○内容	◎教師の援助・環境構成
導入 表現遊び、協同的な遊び（友達とかかわって遊び、共通の目的が生まれる過程）	1	① 今までの遊びを振り返る。 ・友達と楽しみたいことを話し合う。	☆好きな遊びを選びながら、友達と一緒に楽しむ。	◎今まで楽しんできた遊びを振り返りながら、楽しく遊びが展開できるようにする。
	2	② 表現遊びをする。 ・製作遊びやあやとり、リズム遊びをする。	○様々な遊びを友達と楽しむ。	◎様々な遊びの中で、自分がやりたい遊びを選べるように、興味関心が湧く環境を整えていく。
	3	③ 振り返りをする。 ・楽しかったことや、遊びに必要な物を考える。	○友達に思いや考えを伝えて、遊びや話し合いに参加する。	◎振り返りでは、楽しさが感じられる雰囲気を作り、発言を引き出して、次の活動へ期待が持てるようにする。
	4	① 表現遊びをする。 ・製作遊びや絵本作りなどを楽しむ。 ・あやとりで技を友達と考える。	☆自分の思いや考えを伝えながら、友達と一緒に楽しむ。	◎同じ遊びの仲間の仲立ちをしたり、いいアイデアを紹介したりして、楽しい雰囲気遊びに参加できるようにする。
	5	② 振り返りをする。 ・楽しかったことや、工夫したことを話し合う。	○様々な遊びを、友達と誘い合って楽しむ。	◎それぞれで遊びを楽しめるように、場所の確保や素材や材料を提供していく。
	6	① 表現遊びをする。 ・海賊の船や大型絵本の絵を描いたりする。 ・人間あやとりやリズム遊びをする。	○友達に思いや考えを伝えながら、遊びを一緒に進めようとする。	◎遊びの中で必要な物に気付かせ、友達と作ったり考えたりする場面を、意図的に作っていく。
	5	① 表現遊びをする。 ・海賊の船や大型絵本の絵を描いたりする。 ・人間あやとりやリズム遊びをする。	☆友達と一緒に会話をしながら、遊びを進めて楽しむ。	◎遊びの中の集団を大切に、会話の仲立ちをしたり、アイデアを紹介したりして、楽しい雰囲気が作れるようにする。
	6	② 振り返りをする。 ・できたことや遊びに必要な物を話し合う。	○友達と工夫したり考えを出し合ったりする。	◎友達と一緒に遊びを進める楽しさや、同じ目的に向かって遊ぶ充実感が味わえるように、話を引き出していく。
			○話し合いに参加し、自分の思いや考えを話したり、聞いたりする。	◎遊びを振り返りながら、必要な物に気付かせ、明日への期待につなげていく。

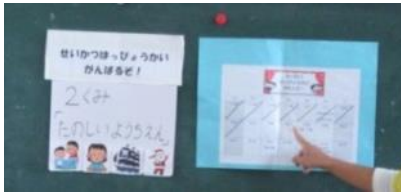
展開	劇作り（試行錯誤しながら友達と一緒に共通の目的に向かおうとする過程）	7	① 生活発表会の話し合いをする。 ・劇遊びの内容を考える。	☆友達と一緒に話し合い、イメージを共有し、遊びに必要なことを考えたり、試したりする。	◎学級で話し合った内容を紙芝居にして、実際に試せるようにし、劇作りに期待が持てるようにしていく。
		8	② 劇遊びに必要な物、動きを考える。 ・海賊ごっこに必要な大、小道具を作る。	○友達と話し合いながら、自分たちで進めようとする。	◎劇作りの準備を進める中で、集団で話し合う場を設定し、様々な試行錯誤が出てくる場面に応じて、援助をしていく。
		9	・あやとり遊びをする。 ・大型絵本の内容を考えたり、絵を描いたりする。 ・人間あやとりやリズム遊びをする。	○劇遊びに参加する中で、試したり工夫したりしていく。	◎実際に作ったり試したりできる場の設定や、時間配分をして遊びが展開できるようにする。
			③ 今日の活動を振り返る。 ・劇遊びに必要な物や、物語の内容を話し合う。	○話し合いの中で、気持ちや行動に折り合いをつけようとする。	◎話し合い等で、葛藤場面やトラブルが出てきた時は、状況に応じて、仲立ちや代弁しながら援助する。
					◎言葉での話し合いだけでなく、実際に試せるような場を設定したり、視覚的にわかるような物を準備したりしていく。
	10 公開検証保育		① 劇遊び（楽しい幼稚園）をする。 ・前日を振り返り、今日の活動に見通しを持つ。	☆ストーリーに合わせて言葉を話したり、場面に合わせて行動したりして、友達と表現することを楽しむ。	◎劇遊びについて話し合い、イメージ共有して今日の活動に参加できるようにしていく。
			② 劇遊びに参加する。 ・場面に分かれて劇遊びをする。	○学級で話し合い、イメージを共有して、劇遊びを進めようとする。	◎みんなで協力することで、演技したり動きを揃えたり、劇遊びが楽しく続けられることに気付かせていく。
			③ 活動を振り返る。 ・できたことや課題を話し合う。	○友達と動きを合わせたり、協力したりする。	◎振り返りの中でうまくいった場面や改善点を話し合い、次につながる場にする。
					◎一人一人の発言を丁寧に拾いながら、みんなで共有できるようにしていく。
まとめ	表現劇（友達と一緒に共通の目的を実現しようとする過程）	11	① リハーサルをする。 ・イメージや達成したいことを共有して、劇遊びを始めていく。 ・劇遊び（リハーサル）を進める。	☆生活発表会に向けて、協力して劇遊びを進める楽しさを味わう。	◎リハーサルの緊張感を受け止めながら、自分たちで進めている姿を認め、褒めたり励ましたりしていく。
			② 劇遊びを振り返る。 ・できたことや課題、演技方を話し合う。	○互いの動きを見ながら、考えて動いたり演技したりする。	◎劇遊びで、戸惑ったり困ったりする場面では、発問を工夫し、自分たちで協力して進められるように気付かせていく。
		12	① リハーサルや、生活発表会練習に参加する。 ・表現劇を演じる。 ・演技方を話し合う。	○思ったことや感じた事、気付いたことを伝え合う。	◎終わったあとに、感想を話せる場を作り、その気持ちを受け止め、褒めたり認めたりしていく。
		13	② 今までの取り組みを振り返る。 ・よかった所、生活発表会に向けての思いを伝えあう。	☆みんなで力を合わせて、劇をやりとげる達成感や、満足感を味わう。	◎他の学級の演目を見て、演じる姿を見たりすることで、どうしたら観客が楽しめるか気付かせていく。
		14	③ 生活発表会に参加する。 ・振り返りに参加し、思いを伝え合う。	○自分たちの生活発表会という気持ちで取り組む。	◎緊張をほぐしながら、劇遊びを楽しむこと、協力し合うことを確認して、自信をもって演じられるようにする。
		15		○自信を持って最後まで演じる。	◎生活発表会を楽しみにしている気持ちや、不安な気持ちを受け止めて、力が発揮できるよう励ましていく。
				○劇を最後まで演じ成功させた喜びをみんなで味わう。	◎当日は、子どもたちのこれまでの頑張りを伝えながら、自信を持ってできるようにし、達成感を味わえるようにする。
					◎生活発表会後に、振り返りの場を設け、協力してできた充実感を味わえるようにする。

8 本時の指導案

単元	○活動名＜みんなで劇作りをしよう＞			
ねらい	・ストーリーに合わせてことばを話したり、場面に合わせて体を動かしたりして、友達とのやりとりを楽しむ。		内容	・学級で話し合い、共通のイメージを持って劇遊びを進めようとする。 ・自分の思いや考えを伝え、相手の話も聞きながら動きを合わせたり協力したりする。
活動仮説	協同的な遊びの中で、共通の目的に向かうにあたり、自分の気持ちに折り合いをつけたり、様々な感情の交流を経験したりすることで、人とのかかわる力が育まれるであろう。			
時間	展開	◎予想される幼児の活動 ◇ねらい	☆教師の援助	○環境構成
10:00	導入	◎集まりに参加し、今日の活動を話し合う。 ・前日までの劇作りを振り返る。 ・今日の活動について話し合う。 ◇学級全体での共有 ・教師や友達の話に興味を持って聞く。 ・自分の考えや思いを伝えながら、今日の目標を考える。	☆前日までの取り組みや、交流種目での頑張りを話題にし、生活発表会に向けて気持ちを高められるようにする。 ☆今日の劇遊びについて話し合い、イメージを持って活動に参加できるようにしながら、友達と協力して取り組む大切さに気付かせていく。 ☆活動の見通しが持てるように、今日の目標をみんなで確認して共有していく。	○ストーリーを表示物で確認したり、カレンダーを提示したりして、今日の活動のイメージが、共有できるようにする。 教材：場面の表示、ホワイトボード、発表会までのカレンダー、アンプ、音響用のCD
10:15	展開	◎劇遊びをする。 ・「楽しい幼稚園」の劇遊びに参加する。 ◇友達との協力,自己発揮 ・自分の力を発揮して表現する。 ・気付いたり相談したりして、友達と進める。 ・劇遊びに必要なセリフを考えて言う。	☆さまざまな場面が展開していく中で、友達と相談したり協力したりしている場面も紹介できるように、目配りを心掛けていく。 ☆みんなで協力することで、演技したり動きをそろえたり、劇遊びが楽しく続けられることに気付かせていく。 ☆各場面で、友達同士のかかわりで、トラブルや意見の相違があった時は、状況に応じて仲立ちや代弁等の声かけをしていく。	○活動の流れが途切れないように、時間配分や空間の環境を整え、展開できるようにしていく。
10:40	まとめ	◎今日の活動を振り返る ・劇遊びを振り返って発表する。 ・明日の見通しを話し合う。 ◇学級全体での共有 ・自分の考えや思いを伝えながら、教師や友達の話も聞いて考える。	☆協力してやり遂げた場面を話題にし、うまくいった場面や改善点に気づき、次に続いていけるような話し合いの場にする。 ☆一人一人の発言を丁寧に拾いながら、伝えたいこと、伝えたい状況を整理していき、みんなで共有したりつなげたりできるようにしていく。	○振り返りの場では言葉での話し合いだけでなく、実際に試せるような場を設定し、見てすぐにわかるような物を準備する。 教材：場面の表示、発表会のカレンダー
反省評価	劇遊びで、共通の目的に向かうにあたり、自分の気持ちに折り合いをつけたり、場面に合わせた行動をしたりして、劇遊びを楽しむことができたか。			

9 公開検証保育の様子

第10時 本時「ストーリーに合わせて友達との表現することを楽しむ」

○幼児の姿	☆教師の援助、環境構成
導入 共通の目的を共有する  写真 12  写真 13  写真 14 ○活動に意欲的に参加しようとしている子がいる一方、気分が乗らず、うまく参加できていない子もいる。	導入 ☆劇遊びについて話し合い、活動の見通しが持てるように、目標や内容をみんなで確認していく。 ☆教材を使って話し合いながら、友達と協力して取り組む大切さに気付かせていく。 (写真12～14)
展開1 気持ちを合わせる  写真 15 先生役が物語を進める。「これから『たのしいようちえん』を始めます！」  写真 16 大型絵本の場面 「すると、動物たちは小人に変身しました！」 ○ストーリーの展開に合わせて、子ども達同士で進めたり、気持ちや行動に折り合いをつけたりして表現する姿がある。 ○教師役の話の進め方や、ページをめくるなどの役割分担を、子ども達同士で話し合いながら進めている。(写真15・16)	展開1 ☆さまざまな場面が展開していく中で、友達と相談したり、協力したりしている姿も、紹介できるようにしていく。 ☆場面に合わせた道具を準備し、自分たちで展開できるようにする。
展開2 行動を合わせる  写真 17 人間あやとりの場面 「そっちをくぐるんだよ」「そこを通って！」 あやとりの場面 「じゃーん！二重橋！」 「私は縦の橋！」  写真 18 ○場面ごとに練習を重ねたこともあり、友達の動きや発言を、見たり聞いたりして、合わせようとしながら進める姿がある。(写真17・18)	展開2 ☆動きをそろえたりすることで、劇遊びが楽しく続けられることに気付かせていく。 ☆できたことや達成したことを、褒めたり認めたりすることで、自信を持って披露できるようにする。

○幼児の姿	☆教師の援助、環境構成
展開 3 感情の交流 「引っ張られたから手が外れた…」 「手を離さないでよ…」 「俺は引っ張ってないよ」 「優しく引っ張った方がいいんじゃない？」 「ちゃんと見てから動いた方がいいよ」  写真 19 ○予想外のことで、戸惑ったり困ったりする場面では、言葉で伝えたり、行動で示したりして、解決しようとしていた。(写真 19)	展開 3 ☆トラブルや意見の相違があった時は、言動や表情から、状況に応じた援助を工夫する。 ☆活動にうまく参加できない子に、声かけを工夫して参加しやすくしていく。
展開 4 表現を楽しむ  写真 20 海賊ごっこ場面 「宝に向かって出発！」 「おおー！」 「お宝をゲットしたぞ！」 「やったー！」 ○以前は、うまく遊びに参加できなかったCくんが、中心的存在になり、船長を任されてリーダーシップをとりながら、自信を持って表現できていた。(写真 20・21)  写真 21	展開 4 ☆表現を楽しんでいる場面では、見守りながら、褒めたり認めたりして満足感が味わえるようにしていく。 ☆大道具などを自分たちで準備したり、片付けたりできるように、空間の環境も整えていく。
まとめ 思いや考えを伝え合う 「みんなで頑張ったからよかった！」 「Aさんと同じ気持ち！」  写真 22 「人間あやとりがうまくいって楽しかった！」  写真 23 ○リハーサルについて、期待を持って話し合う様子が見られた。(写真 22・23)	まとめ ☆活動での振り返りで、達成した気持ちを話し合える場面を作り、楽しさや満足感が共有できるようにしていく。 ☆一人一人の発言を丁寧に拾いながら、伝えたいことを整理していき、みんなで共有できるようにしていく。

10 公開検証保育の考察

(1) 成果

- ① 協同的な遊びの教材として、これまでの経験を活かした、共通の目的が実現できる身近な内容であったことで、子ども達が協力や役割分担をして、楽しんで参加することができた。
- ② 劇遊びでは、友達と積極的にかかわる姿が見られ、友達と話す、聞く、一緒に行動する、動きを合わせるなどの姿が見られたことで、気持ちや行動に折り合いをつけることができた。
- ③ 場面や状況に応じて、声かけや発問を工夫したことで、協力したり相談したりし、幼児同士で思いや考えを出し合いながら、進めようとすることができた。

(2) 課題

- ① 友達とかかわりながら、楽しんで活動に参加していたが、イメージが合わずに数人の子ども同士で楽しむ場面もあったので、劇遊びの内容を深めることが必要である。
- ② 劇の流れが未完成であった部分があったこともあり、劇遊びに必要なまとまりを欠いていた。自分たちで考えて構成し、実行してやり遂げるための手だての再検討が必要である。
- ③ 友達とのかかわりを深めるために、劇遊び前のグループごとの話し合いの設定や、幼児間のグループ編成の工夫する必要がある。

11 公開検証保育後の保育の様子

検証保育 (11) ～ (15) 「リハーサル、生活発表会当日：共通の目的の実現、集団的達成感」		
○幼児の姿		☆教師の援助、環境構成
 「おいしいお弁当をくわっちいさびら」 「みんなで最後のリズム♪」 写真 24	 写真 25	☆発表会を楽しみにしている気持ちや、不安な気持ちを受け止めて、励ましていく。 ☆当日はこれまでの頑張りを伝え、自信を持ってできるようにする。 ☆生活発表会後に振り返りの場を設け、協力してできた満足感が味わえるようにする。
○発表会当日は緊張しながらも、友達と一緒に動きや声を合わせ、最後までやり遂げ、充実感を味わう姿が見られた。(写真24・25)		

Ⅸ 仮説の検証

本研究では、協同的な遊びを通して友達とかかわり合い、共通の目的に向かって遊ぶことができる、教師の援助や環境構成の工夫を行っていった。検証保育における幼児の実態、活動の様子、発言内容、ソシオメトリック・テスト、アンケートなどから、幼児同士が協同的な遊びを通して、人とのかかわる力が育まれたかどうかを検証する。

1 具体仮説(1)の検証

友達と積極的にかかわれるように、意図的に協同的な遊びの場や話し合う場面を設定したり、試行錯誤したりできる場を設けることで、友達とかかわりあって楽しむ子が育つであろう。

(1) 意図的な集団の形成や話し合う場面、試行錯誤や工夫をして遊ぶ場の設定について

興味関心のある遊びを、友達とじっくり遊び込むことで、話し合いや試行錯誤、工夫が生まれるため、それが楽しめるように、落ち着いて集団で活動できる場を設定した。絵本作りでは、手作りの大型絵本という、興味関心が生まれる教材を準備することで、「みんなで大きな絵本を作ろう」という発想が生まれ、ページ毎に、友達同士で物語の内容を相談しながら、楽しんで作り上げていく姿が見られた。また、人間あやとりやリズム遊びでは、音楽や友達の動きに合わせて、「こんな動きはどう?」「これは?」と、会話を交わしながら、行動や気持ちを調整して、試行錯誤しながら進める姿が見られた。そして、段ボール遊びから海賊ごっこに展開する時には、「海賊には宝が必要、旗が必要」等の友達同士での相談が始まった。そこから旗を付ける場所や、必要な物を考え、試行錯誤しながら、友達と一緒に遊びを進めて楽しむ姿が見られた。

(2) ソシオメトリック・テストによる検証

友達関係を検証前後で比較すると、今回は、友達の名前を挙げる子が増加し（○：85人から128人）、友達とのかかわりの広がりが見られた。また、全員が2名以上の名前を挙げ、前回よりも名前を挙げる子が増えている。

前回1名しか名前を挙げられなかったA児が1名から9名をの名前を挙げ海賊ごっこでリーダーシップを取ったC児も、前回より2名多い8名の名前を新たに挙げるなど、友達とのかかわりが広がった様子も見られる（図7）。

そして、今回は性別で友達を選ぶ偏りがあり、男女別の友達関係がはっきりしていた子が19人いたが、今回は9人と減り、男女分け隔てなく、友達関係が築けていた子も増えている（図8）。

また、劇の場面別メンバー表も一緒に考察すると、以前のテストでは名前が挙がらなかったが、劇で同じ場面を選び、一緒に活動をした子の名前を新しく挙げる子が、78%いることがわかった。

この結果を踏まえると、劇作りを通して一緒に活動を楽しみ、親しみをもち、新しく友達と感じて名前を挙げた子が多いこともわかる。よって、さまざまな友達とかかわれる集団で遊べる場、話し合いや試行錯誤をして、友達とかかわる場の設定は、一定の効果があったと考える。

2 具体仮説（2）の検証

協同的な遊びの中で共通の目的に向かうにあたり、自分の気持ちに折り合いをつけたり様々な感情の交流を経験したりすることで、人とのかかわる力が育まれるであろう。

(1) 気持ちの折り合いと感情の交流の経験ができる場について

友達と共通の目的が生まれると、試行錯誤しながら進めていく段階で、葛藤、共感、充実感、達成した時の集団的達成感など、様々な感情の交流が起こる。海賊船を作る場面では、「旗はどこにつけるべきか」や「誰が船長か」等、意見の相違が生まれていた。その時には、話し合える場を設定し、双方の考えを聞いていくことで、いいアイデアが生まれ、気持ちや行動に折り合いをつけながら進める姿が見られた。

また、自分の思いや考えが通らず、いざこざに発展することもある。特に人間あやとりの場面では、手をつないだ状態で、引っ張り合いになってしまうこともあった。その状況を見取り、一緒に整理し、どう行動したらうまくいくかを考えさせていくことで、次第に調節し、「そっちをくぐるんだよ」「手を離さないで…そこを通って通って！」などの声が出始め、無理やり引っ張らずにできるようになっていった。そこで協力する大切さ、集団的達成感を味わいながら、仲間意識や人とのかかわる力が育まれていったのではないかと考える。

しかし、場面ごとの共通の目的は生まれたが、それを学級全体で共有する時間が足りず、劇作りの目的の共有に個人差が見られたため、指導計画は再検討する必要があると考える。中には自分の

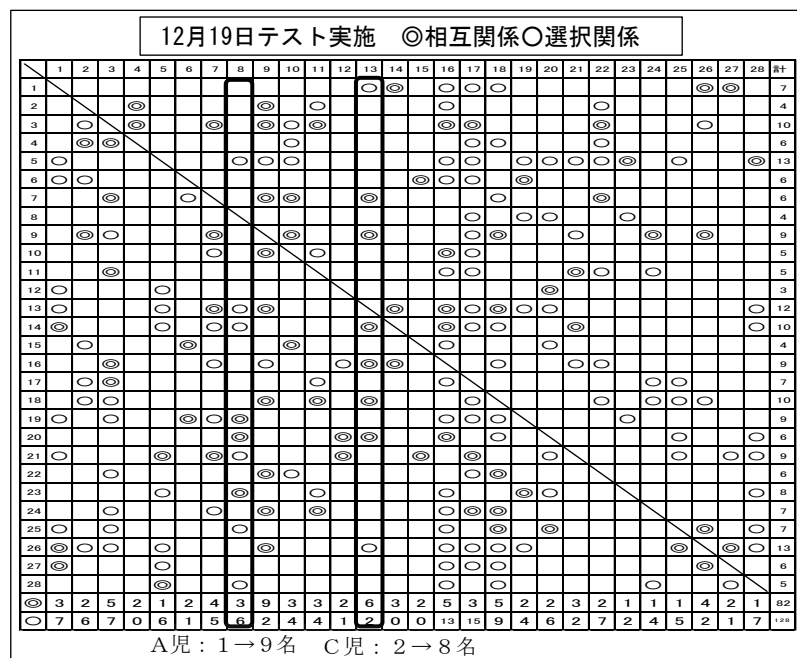


図7 検証後 ソシオメトリックテスト

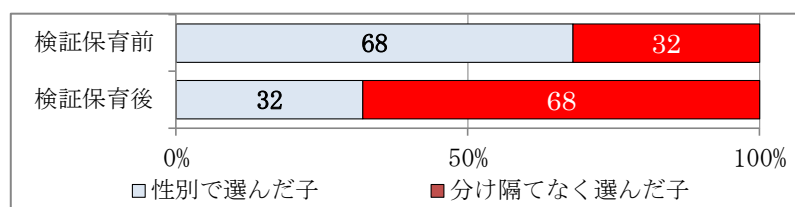


図8 性別で選択した友達関係の比較

思うように行動しようとし、思いや考えをうまく伝えられずに、友達とトラブルになりその場を離れてしまい、そのままうやむやにになってしまう子も見られた。感情の交流は経験できたが、気持ちの調整や、言葉による伝え合う援助の工夫は再考の余地があると考ええる。

(2) 保護者へのアンケート調査による検証

検証保育後に、本学級28名の保護者に対して、「人とかかわりにおいてお子さんが成長した所について」という内容で、12月22日～1月6日までの期間に保護者アンケートを行った。その結果を基に検証する。記述式の質問で、「以前に比べ、お子さんが友達とかかわりで成長したと思う姿を教えてください」という項目では、「前は特定の友達の話ししかしなかったが、最近はいろんな友達の話をしてくれるようになった」というコメントが寄せられた。今回の取り組みで、友達とかかわりを通して、共通の目的に向かう楽しさを経験したことが、このコメントにつながったのではないかと考える。検証後のソシオメトリック・テストの結果も、友達とのマッチングの数は同じだが、友達を挙げた数は増加している。また、劇作りで同じ場面の子の名前も新しく挙げられ、アンケートの結果とつながる姿が見られた。

他の保護者アンケートでは、検証保育前には、友達を一人しか挙げられなかったA児や、集団生活が初めてで、検証前のソシオメトリック・テストでは、女の子とのマッチングしかなかったD児からもコメントが寄せられ、友達とかかわりが変容したことが考えられる。協同的な遊びの中で、様々な経験を重ね、気持ちの折り合いや、行動の調節が少しずつできるようになり、この結果につながったと考えられる。下記は、保護者からのアンケートの一部である。

〔以前に比べ、お子さんが友達とかかわりで成長したと思う姿を教えてください〕
○前は特定の友達の話ししかしなかったが、最近はいろんな友達の話をしてくれるようになった。
○以前に比べると、すぐに手を出してのケンカの回数が減ったように思えます。
○初めの頃は、女の子のお友達と遊んだ事しか話をしませんでした、男の子のお友達の名前も聞かれるようになりました。
○我慢できるようになったと思います。友達を助けてあげたりする話もよく聞きます。

X 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 理論研究で、幼稚園教育要領領域「人間関係」の捉えを深めたことで、援助の方法や手だてが明確になり、年間計画の立案、保育実践につなげることができた。
- (2) 協同的な遊びのための援助、環境構成を保育の軸に据えたことで、遊び込める環境構成と、他者とかかわり、遊びを進める援助を工夫することができた。
- (3) 協同的な遊びにおける3つの視点で幼児の見取りと、ソシオメトリック・テストでの実態把握を行ったことで、保育を可視化して捉え、保育改善ができた。

2 課題

- (1) 協同的な活動の中で、共通の目的を発見・共有する時間の確保が不十分だった。幼児が活動を達成できる、ゆとりを持った指導計画の再検討が必要である。
- (2) 集団での活動に消極的な子を想定した、手立てや援助の工夫に課題が残った。それを踏まえた、一人一人に応じた援助の工夫を再考察していく必要がある。
- (3) 一つ一つの遊びの捉えや、活動のねらいの設定が不十分で、課題が残った。興味関心が生まれる教材研究や、協同的な活動が深まるねらいについて、研究を継続していく。

〈主な参考文献・引用文献〉

- ・文部科学省 平成20年10月 『幼稚園教育要領解説』
- ・友定啓子、小田豊編 2012 『新保育シリーズ 保育内容 人間関係』 光生館
- ・無藤隆 2011 『保育の学校 第一巻 保育の基本と学び』 フレーベル館
- ・兵庫県教育委員会 2010 指導の手引き「人とかかわりを豊かにする教育の推進」
- ・河邊貴子 2002 『遊びを中心とした保育』 萌文書林
- ・森上史郎、大場幸雄 他 編 1992 『最新保育用語辞典』 ミネルヴァ書房